



2021年3月期 第2四半期
決算説明会

2020年12月11日

リバーエレクトック株式会社
(JASDAQ 証券コード6666)

① 2021年3月期2Q 決算概要

執行役員総務本部長 大柴 公基

② 2021年3月期 業績予想

代表取締役社長 若尾 富士男

③ 今後の取り組みについて

代表取締役社長 若尾 富士男

■ 全社業績

スマートフォン向けが伸長。

主力製品の販売数量の増加、販売価格の是正効果等により大幅増収増益。

売上高：**2,550**百万円（前年同期比**26.9%増**） 経常利益：**221**百万円（前年同期比**300百万円増**）

■ 水晶製品事業

音叉型水晶製品が好調。

車載向け（無線モジュールを含む）は新型コロナウイルス感染症の影響あり。

売上高：**2,533**百万円（前年同期比**27.7%増**） 経常利益：**222**百万円（前年同期比**298百万円増**）

■ その他の電子部品事業

車載向けが低調に推移。

売上高：**16**百万円（前年同期比**34.4%減**） 経常利益：**△0.8**百万円（前年同期比**2百万円増**）

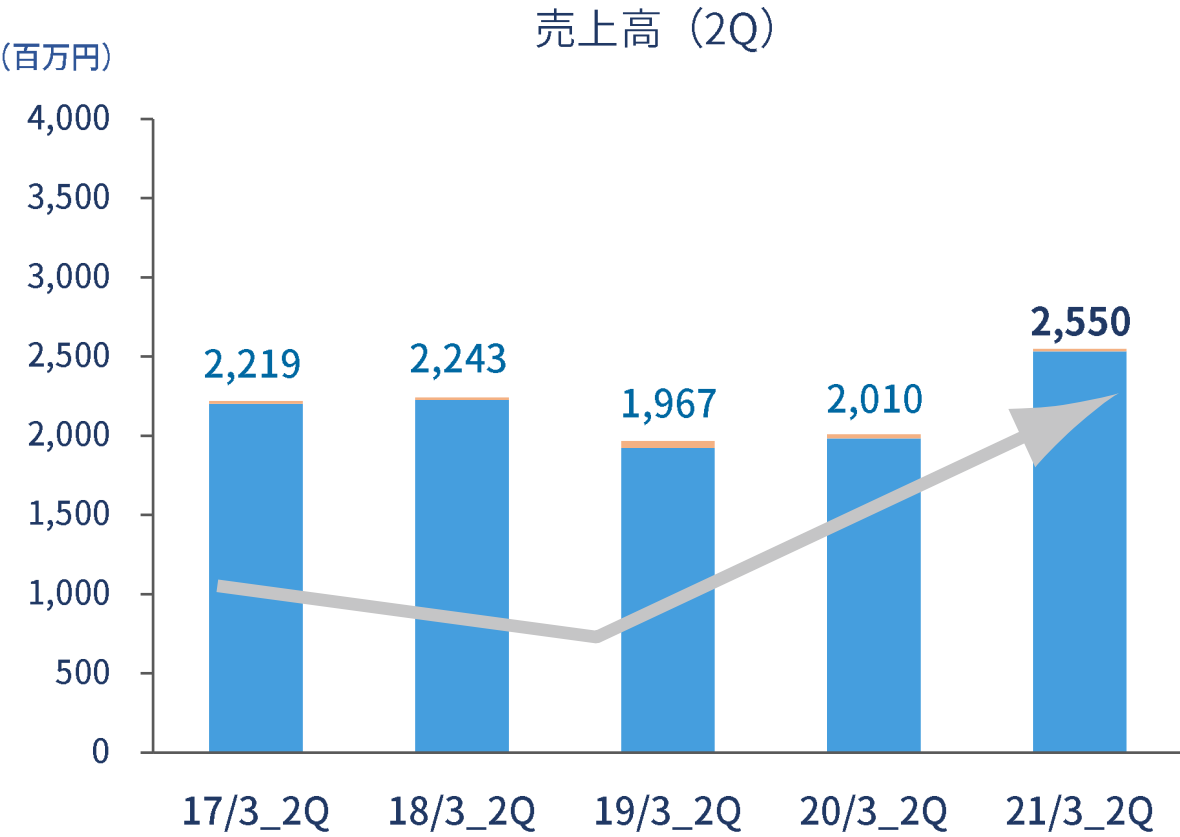
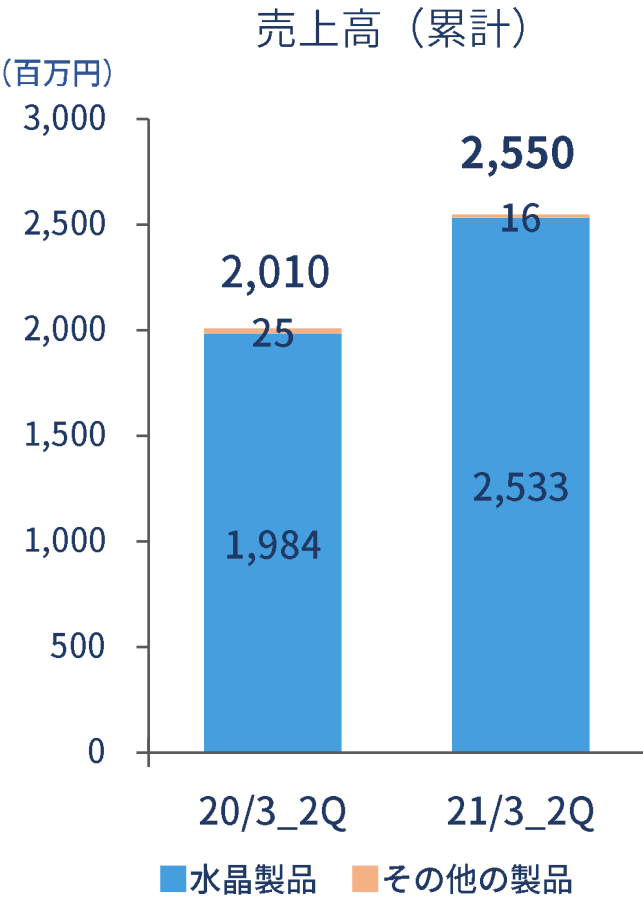
2021年3月期 第2四半期 連結業績（概要）

売上高：水晶製品事業においてスマートフォン向けが伸長（前年同期比96.2%増）

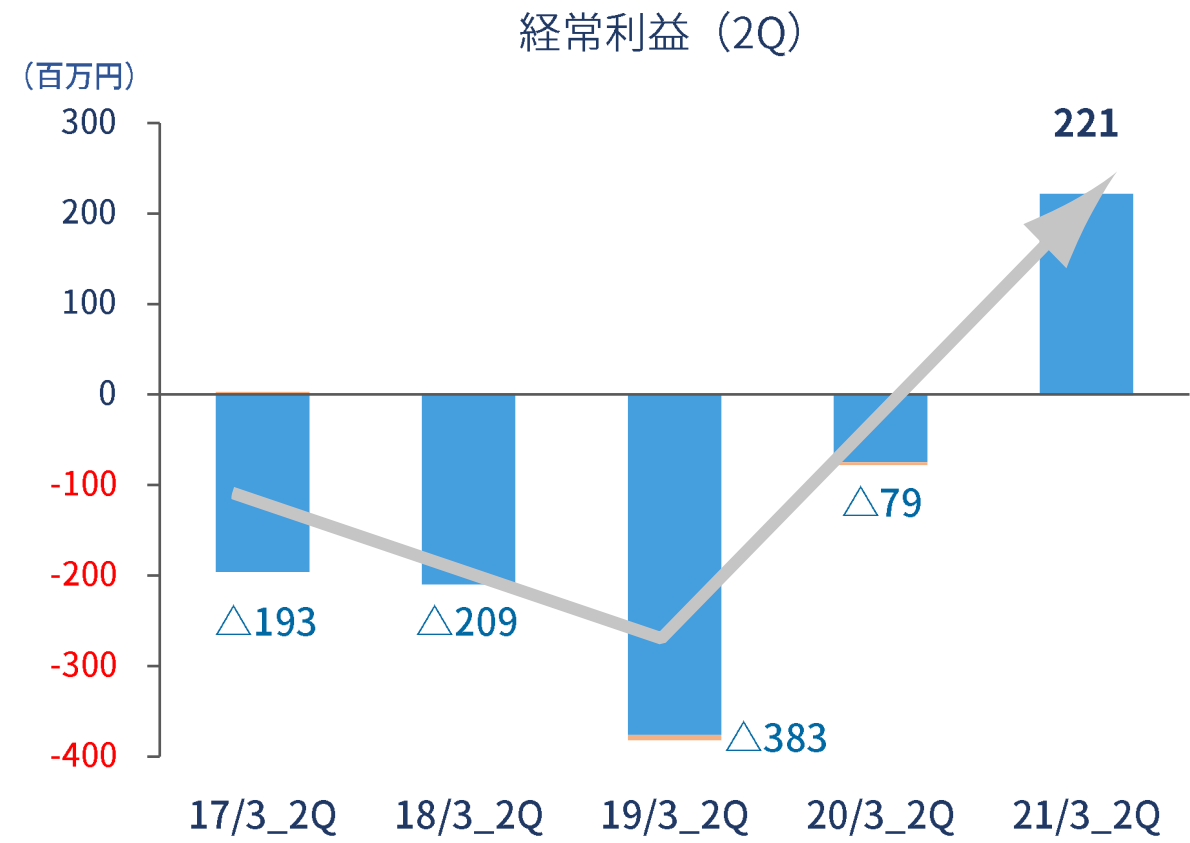
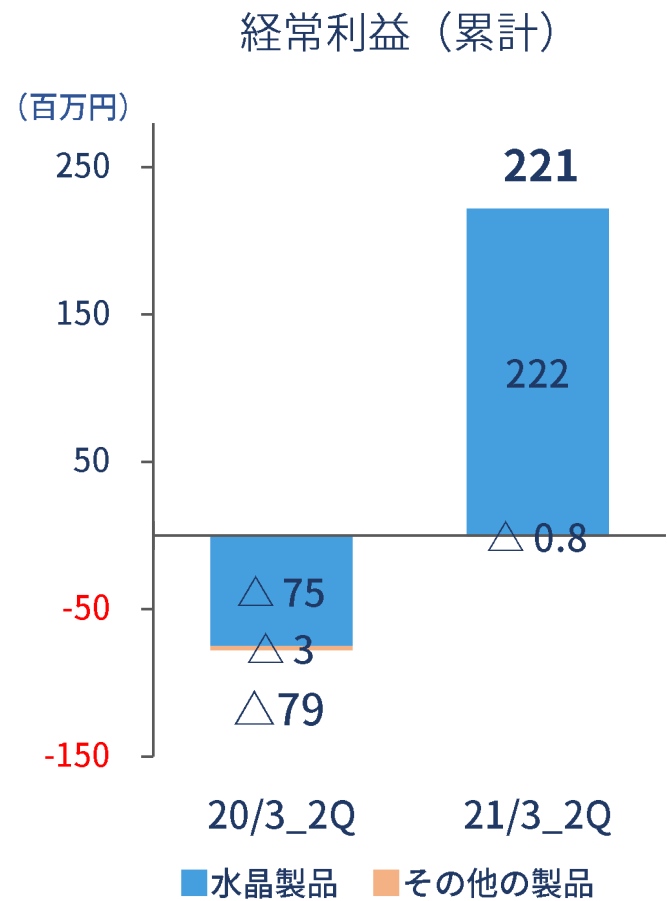
利 益：主力製品の販売数量の増加、販売価格の是正効果等により大幅増収増益

	2020年3月期 第2Q	期初業績予想 (2020/05/13)	2021年3月期 第2Q	前年同期 増減額	前年同期 増減率
(単位：百万円)					
売上高	2,010	2,581	2,550	+540	26.9%
営業利益	△71	153	237	+308	—
営業利益率	△3.5%	6.0%	9.3%	12.8pt	—
経常利益	△79	133	221	+300	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△76	91	224	+301	—
1株当たり四半期純利益	△10.38円	12.35円	30.51円	40.89円	
為替 (USドル)	107.79円	108.00円	107.74円	-0.05円	

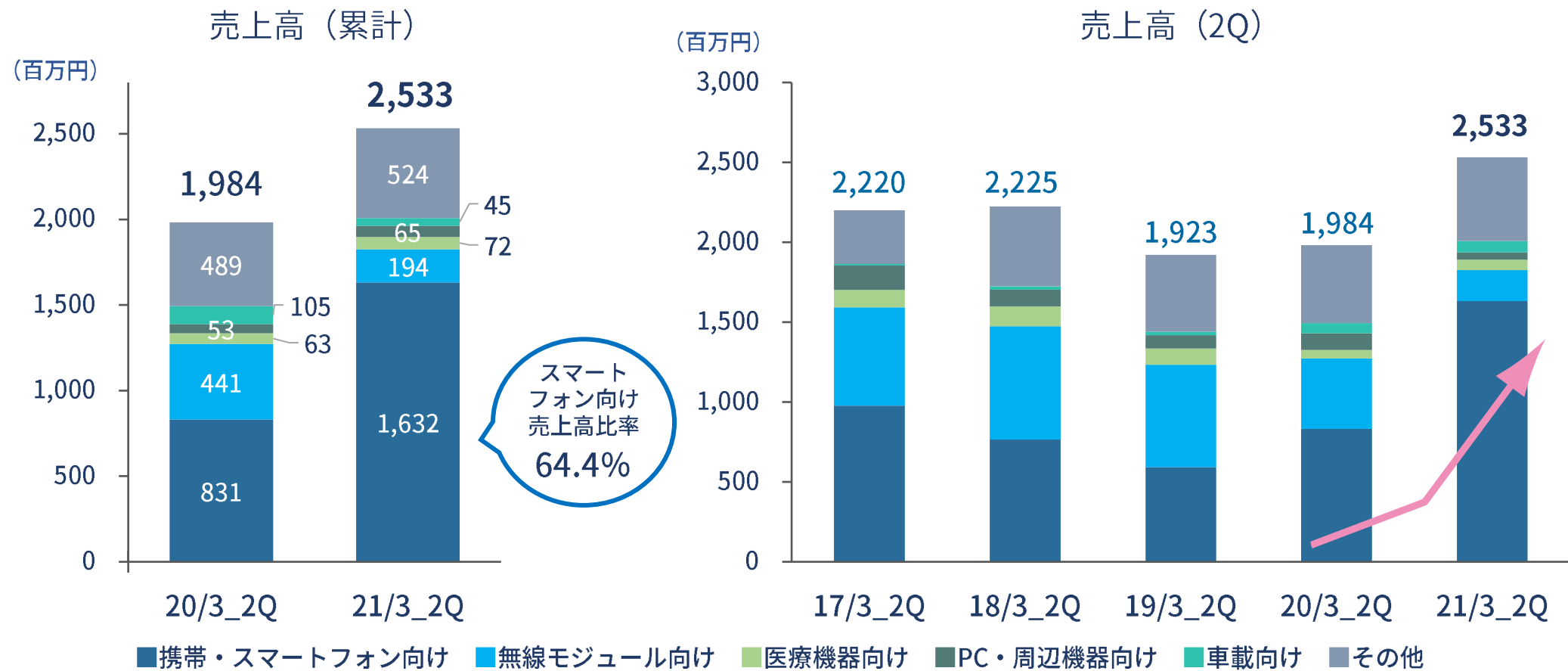
水晶製品：音叉型水晶振動子（スマートフォン向け）が伸長
その他の製品：車載向け需要が低迷



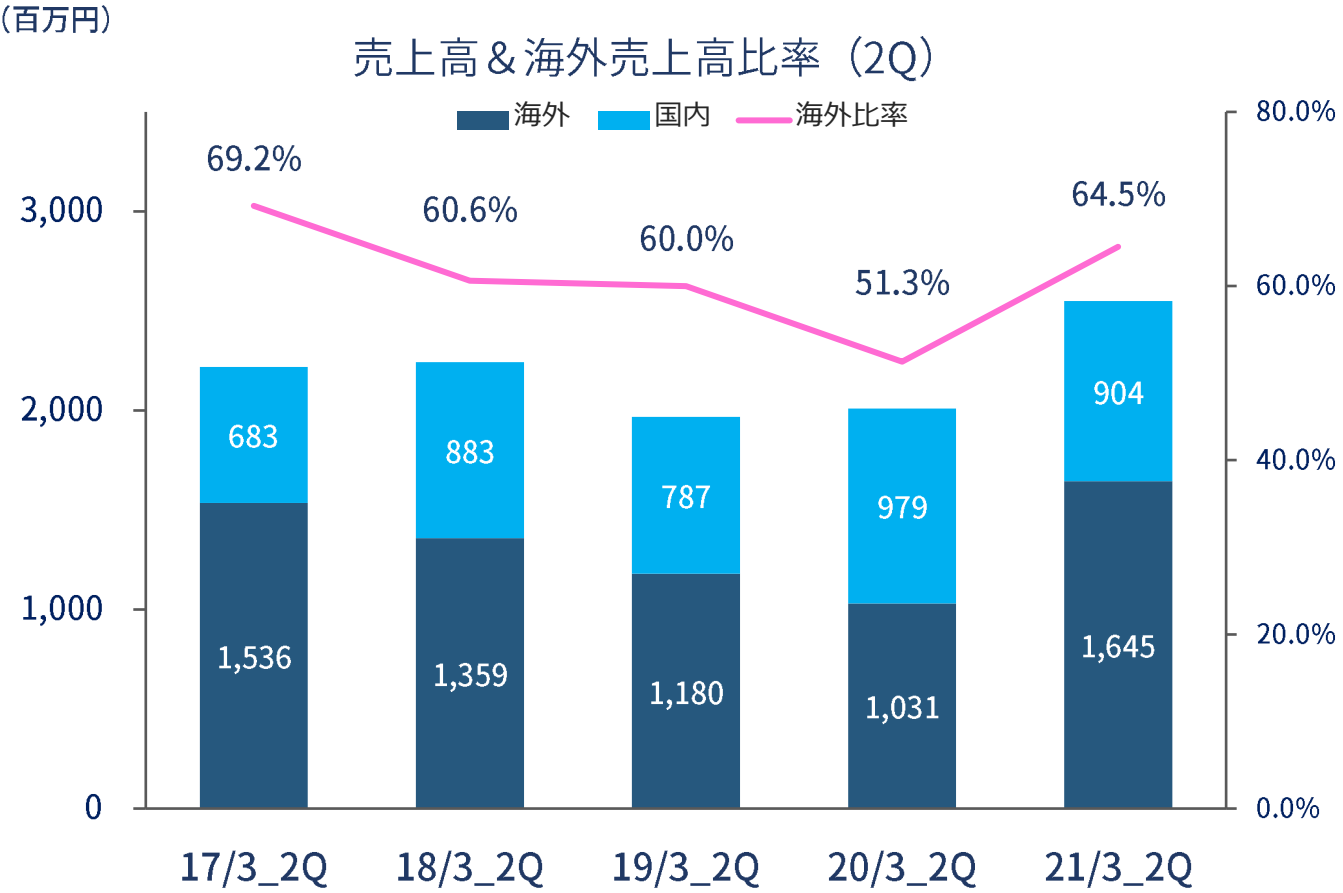
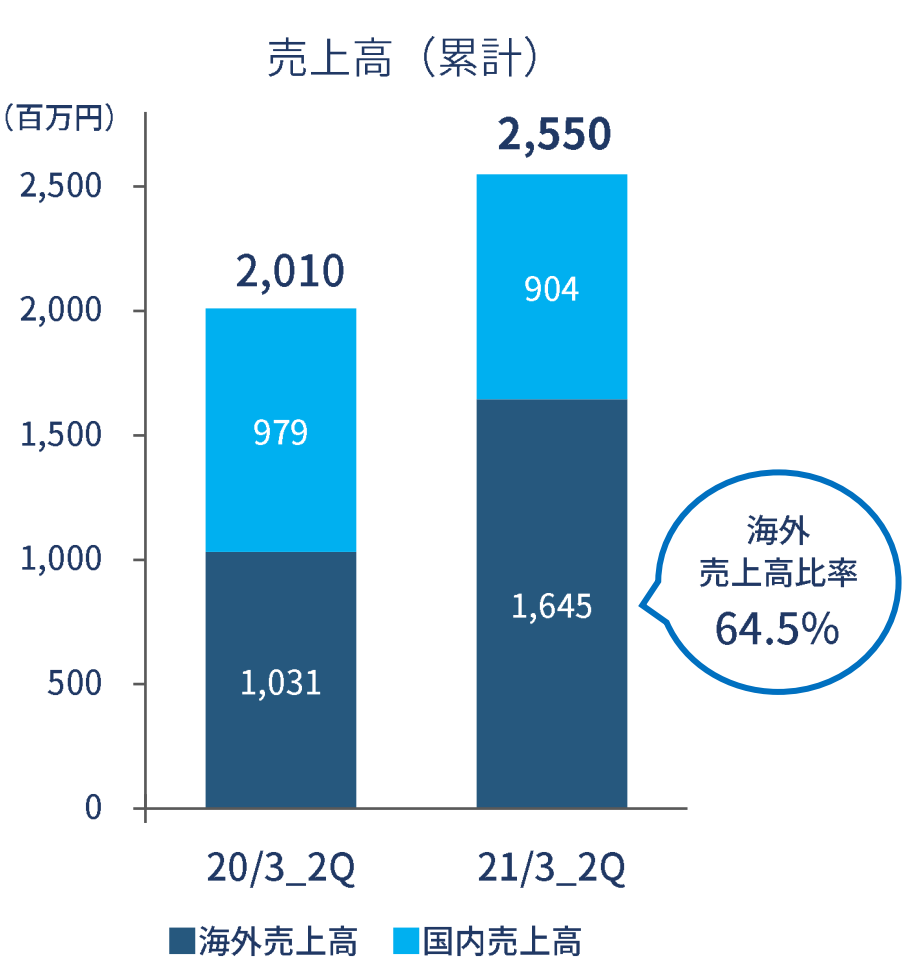
主力製品の販売数量増加、価格の是正効果等により収益性が改善
一部のたな卸資産において評価損等が発生



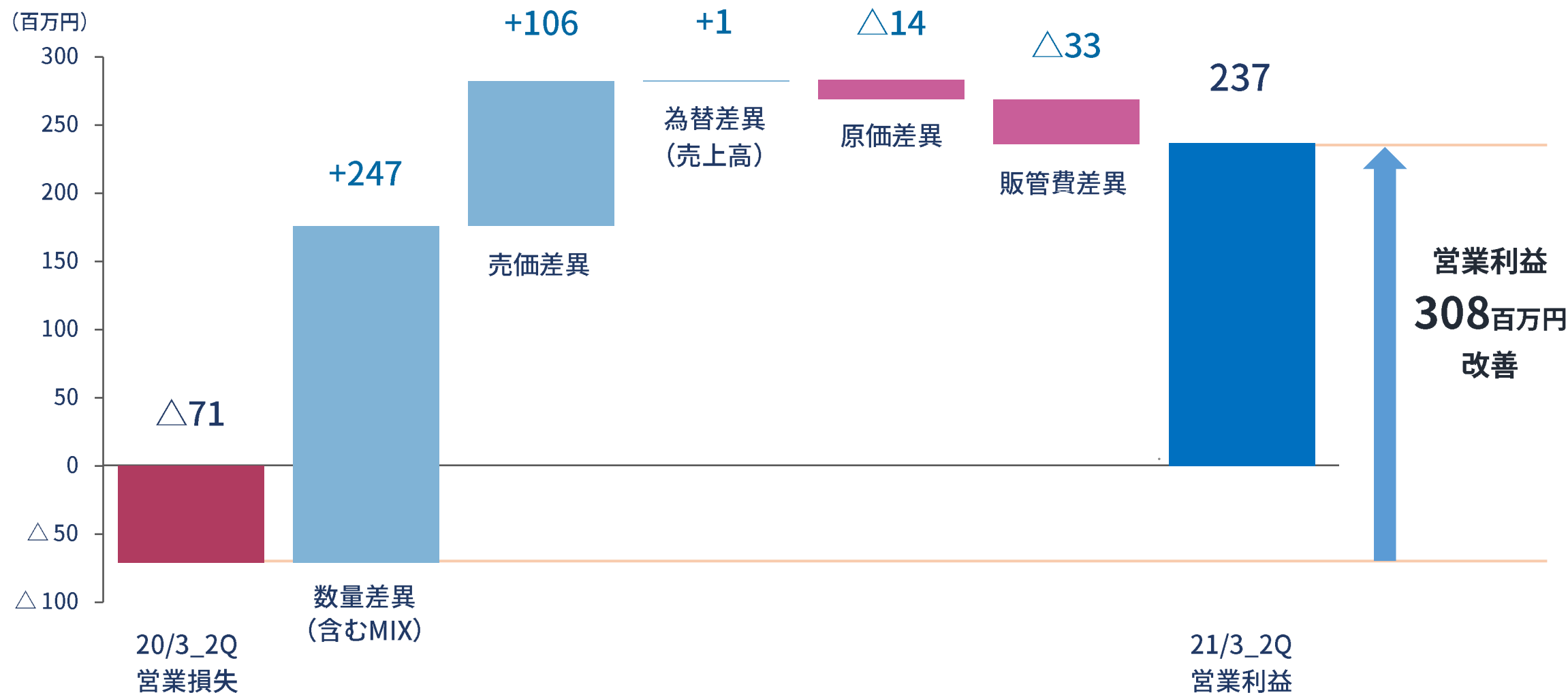
スマートフォン向けはハイエンド中心に5G向けが伸びる
車載向け（無線モジュールを含む）は新型コロナウイルスの影響により受注数が大幅減



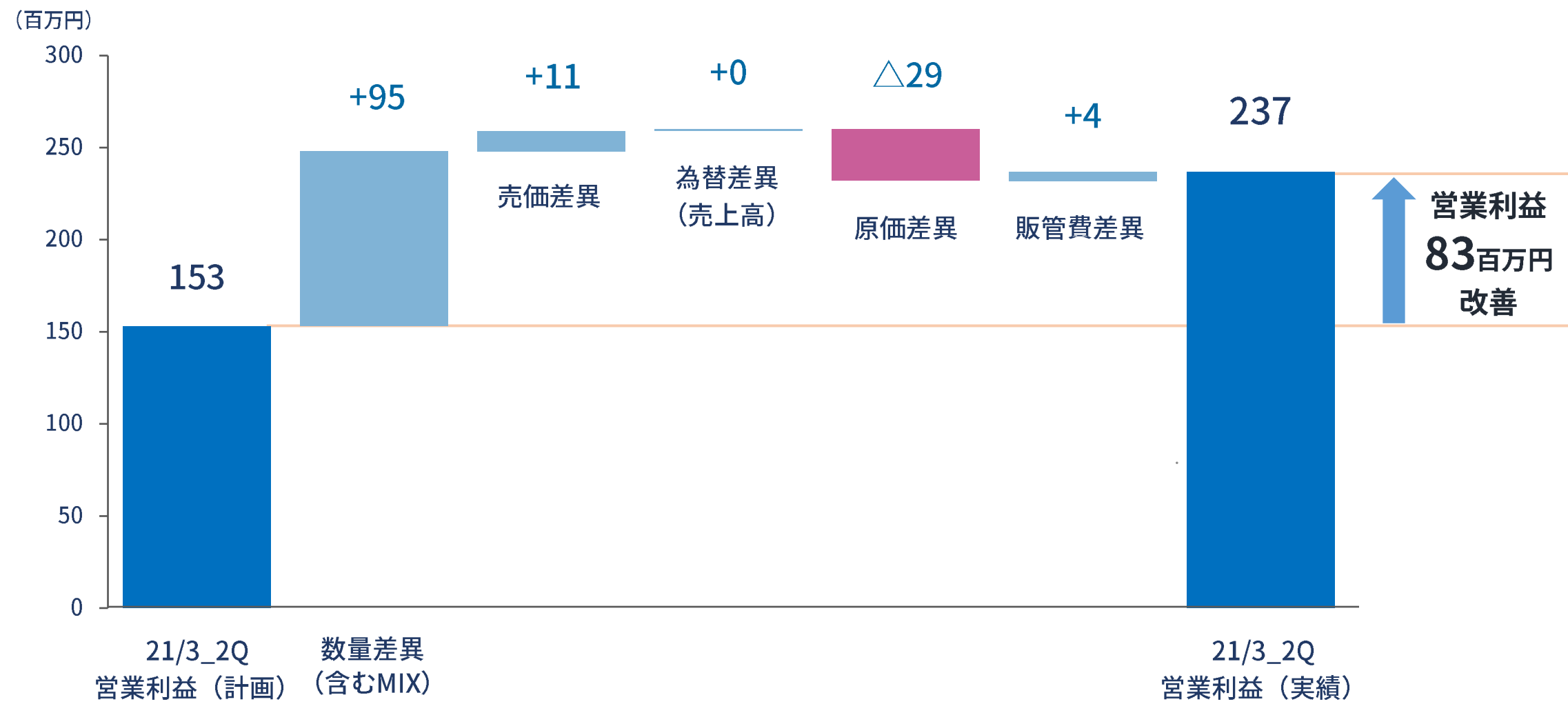
スマートフォン向けが拡大



5G向けスマートフォンの需要増と収益性を重視した営業施策が奏功

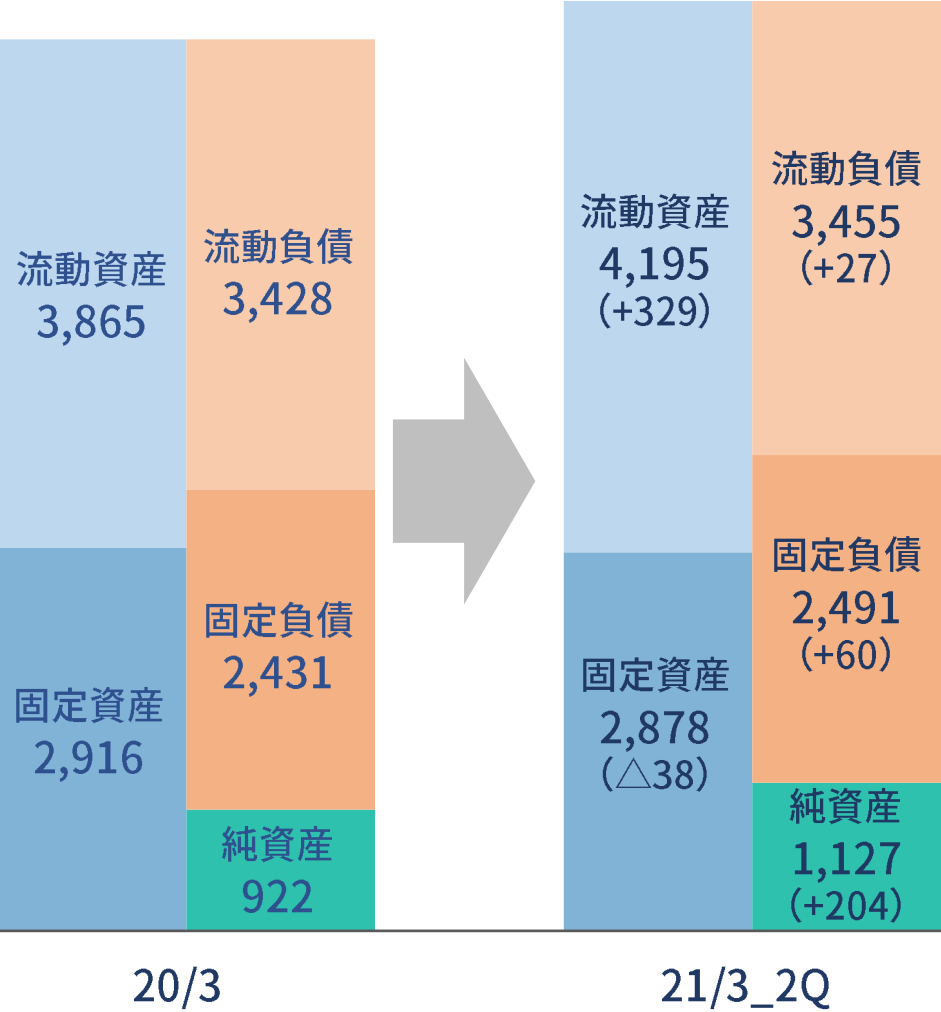


車載関連が想定を下回ったものの、スマホ、医療向け需要が好調であり、対計画でも増益



2021年 3 月期 第 2 四半期 連結貸借対照表

(百万円)



(主たる増減)

流動資産	+329
現金及び預金	+212
たな卸資産	+61
固定資産	△38
機械装置及び運搬具	+624
建設仮勘定	△717
繰延税金資産	+48
負債	+87
有利子負債	+130
賞与引当金	+68
設備関係支払手形	△107
純資産	+204
資本剰余金	△787
利益剰余金	+1,012

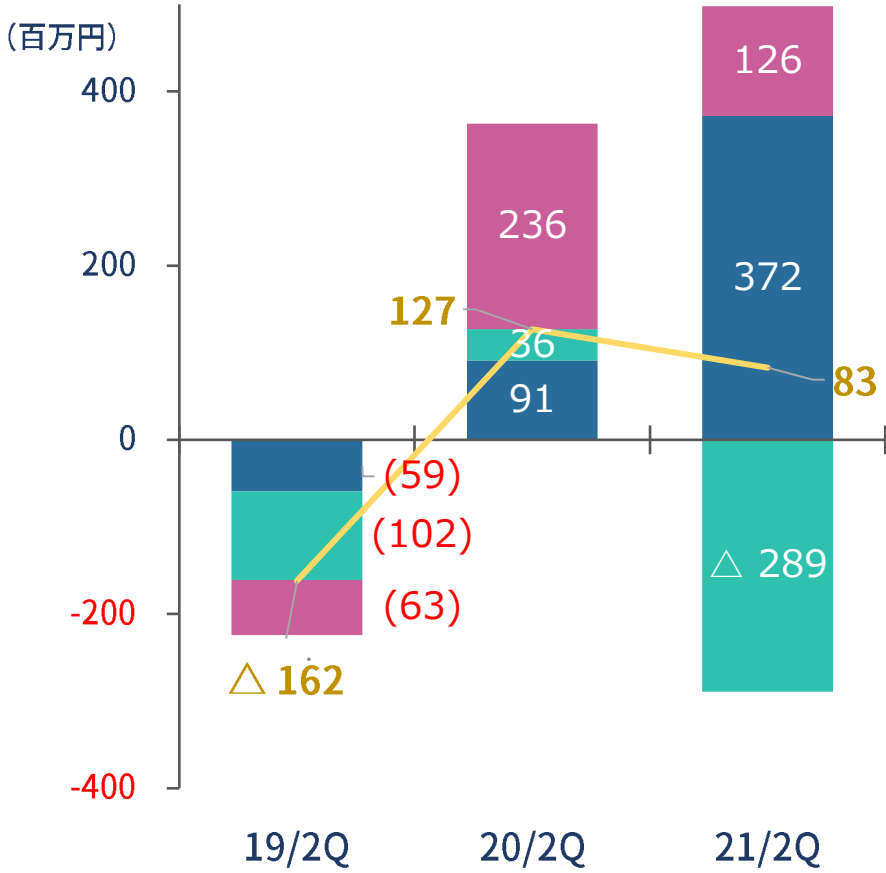
●自己資本比率：15.9%（対前期比+2.3pt）

2021年3月期 第2四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)	2020年3月期 第2Q	2021年3月期 第2Q	増減額
税金等調整前四半期純利益	△73	221	+294
減価償却費	186	194	+7
営業活動に係る資産負債の増減	△2	△114	△111
その他の営業活動	△19	71	+91
営業活動によるキャッシュ・フロー	91	372	+281
有形固定資産の取得及び売却	△76	△269	△192
投資有価証券等の取得及び売却	58	△3	△61
その他の投資活動	54	△17	△71
投資活動によるキャッシュ・フロー	36	△289	△325
フリーキャッシュ・フロー※1	127	83	△44
有利子負債※2の純増減	244	130	△113
その他の財務活動	△8	△4	+3
財務活動によるキャッシュ・フロー	236	126	△110
現金及び現金同等物に係る換算差額	△16	△14	+1
現金及び現金同等物の増減高	347	194	△153
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,161	1,279	+117

※1 営業活動によるキャッシュ・フロー＋投資活動によるキャッシュ・フロー

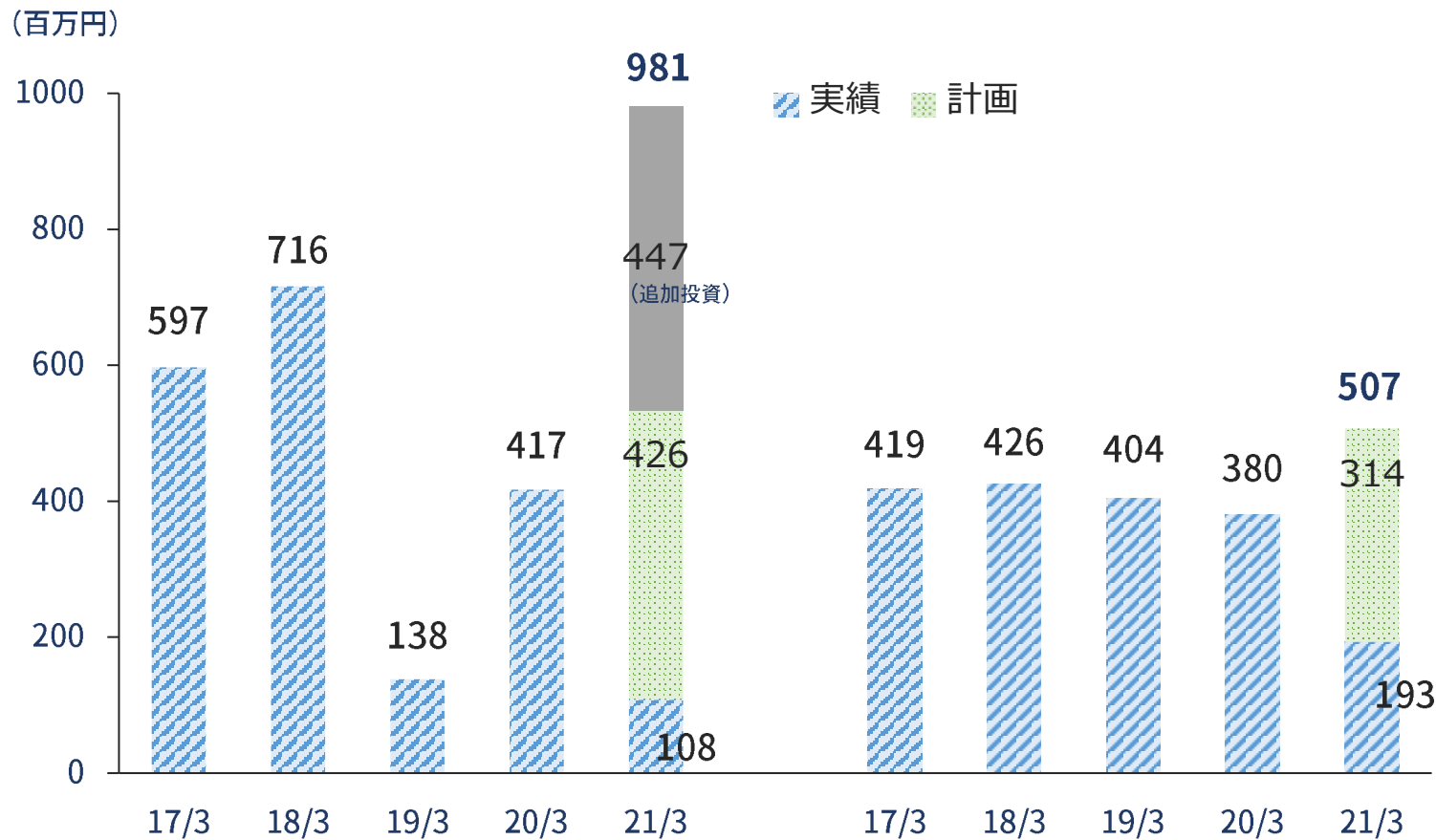
※2 社債及び借入金



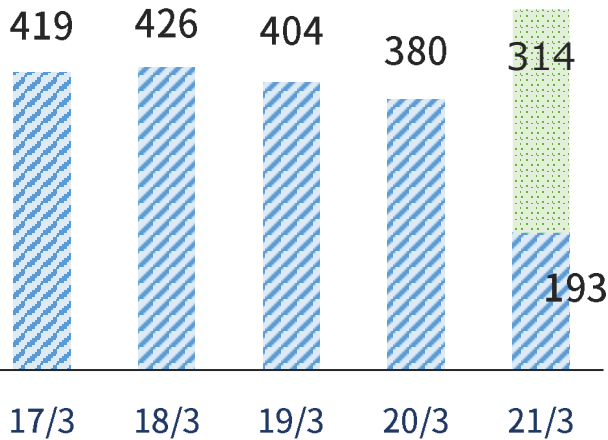
■ 営業活動CF ■ 投資活動CF ■ 財務活動CF
— フリーキャッシュ・フロー

主力製品の能力増強を中心に設備等を実施

設備投資

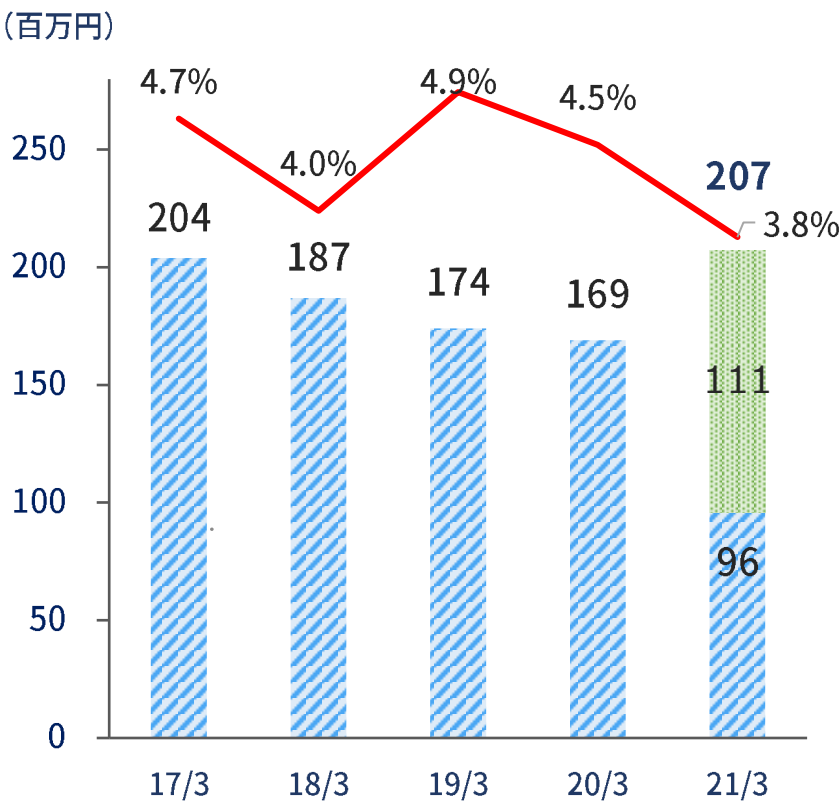


減価償却費



研究開発費

(対売上高比率)



① 2021年3月期2Q 決算概要

執行役員総務本部長 大柴 公基

② 2021年3月期 業績予想

代表取締役社長 若尾 富士男

③ 今後の取り組みについて

代表取締役社長 若尾 富士男

通期予測については5/13発表予測から変更なし
新型コロナウイルス感染症の影響等、状況を見極めながら必要あれば速やかに修正開示

(単位：百万円)	期初業績予想 (2020/05/13)	2021年 3 月期 通期予想 (変更なし)	前年同期 増減額
売上高	5,536	5,536	—
営業利益	417	417	—
営業利益率	7.5%	7.5%	—
経常利益	376	376	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	307	307	—
1株当たり当期純利益	41.76円	※41.67円	-0.09円

※ 1株当たり当期純利益については2020年9月18日に取締役会で決議された自己株式の処分の影響を考慮しております。

配当方針

長期安定的な企業価値向上によって、株主への安定的な配当を継続的に行うことを経営の最重要課題とし、これに加え、連結業績及び配当性向等を総合的に勘案した利益還元を行う

配当性向 連結当期純利益の**20%**を目安

配当金

中間配当金 無配 / 期末配当金 未定

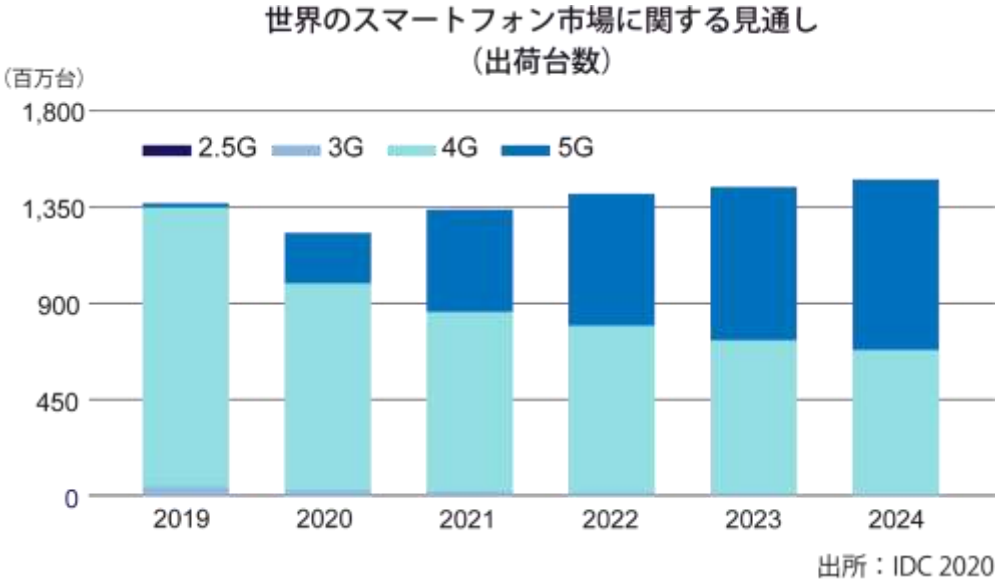
中間配当については、企業価値向上のため、現在の財務状態においては内部留保の充実を最優先させることが重要であると判断し、誠に遺憾ながら無配とさせていただきました

期末配当予想につきましては、引き続き「未定」としておりますが、今後、予想が可能となった時点で、速やかにお知らせいたします



スマートフォン

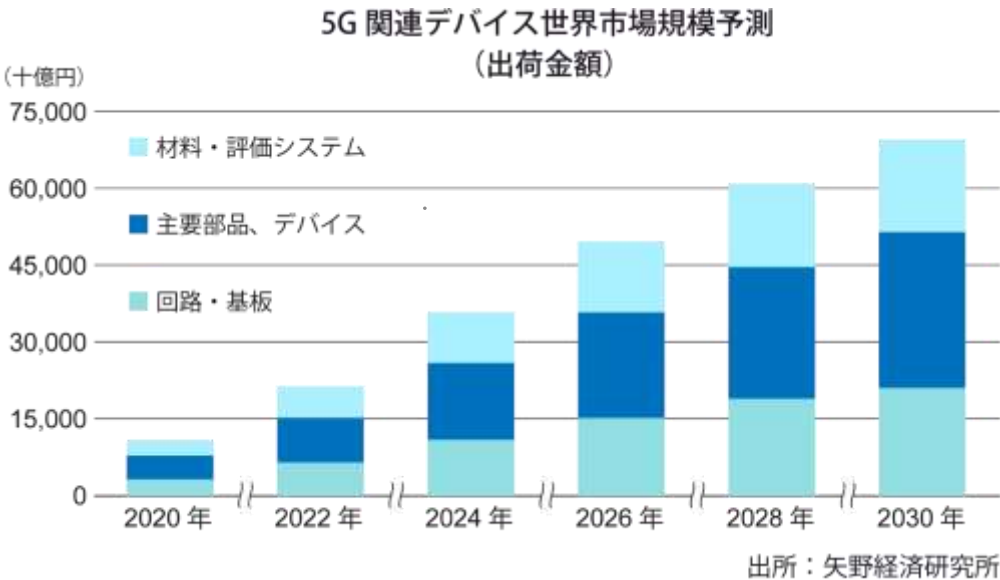
- ➡ 新型コロナウイルス感染症の影響から、スマホ市場の回復に遅れが生じているものの、先進国中心に5G向けへのシフトが進む
- ➡ 他方、発展途上国では4G向けローエンドからミドルエンドへのシフトがつづくと予想



》5G

次世代通信関連

- ➡ 5G関連デバイス世界市場規模が2030年には69兆円になると予想（年平均成長率20%）
- ➡ 5G普及初期には、主に3～6GHz（Sub6）の周波数帯を用いるも今後増大するトラフィック量に対応すべく、ミリ波帯によるシステム構築がされていく見通し





新型コロナウイルス感染症

👉 2021年3月期業績予想の前提条件

- ・収束に2022年3月期末まで期間を要するものの、これまでの実績等から影響は軽微と判断
- ・感染状況等によって必要ならば遅滞なく業績予想の修正を行う

👉 事業活動による影響

- ・車載向けの受注や顧客への提案活動等、一部の営業活動に影響が出ているものの、当期業績における影響は限定的。
- ・インサイドセールスの機能強化等、来期以降における取組を模索

リバーグループ（国内外）の現況

開発・販売・管理	製造	資材調達・物流
<p>通常稼働</p> <p>営業所はテレワーク、時差出勤を実施 感染防止対策（マスク着用、検温、定期消毒等）の実施</p>	<p>通常稼働</p> <p>感染防止対策（マスク着用、検温、定期消毒等）の実施</p>	<p>問題なし</p> <p>今後の動向を注視し、必要な対策を講じていく</p>

重点施策	上期振り返り
<p>注力市場への販売拡大</p> <ul style="list-style-type: none">・注力市場 スマートフォン関連市場・スマートデバイス 自動車・医療ヘルスケア・産業機器市場に注力・注力地域 アジア新興国と北米・欧州 代理店と連携強化し販売網の強化、新市場の開拓を図る	<ul style="list-style-type: none">☞ スマートフォン向けは5G機種へのシフトもあり、受注好調☞ 医療ヘルスケア向けは一時期、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、現在は受注回復し、好調に推移
<p>マーケティング力の強化</p> <p>開発と営業が一体となった技術営業力を強化 競争優位性のある製品をいち早く市場に投入し、お客様の多様なニーズに応えていく</p>	<ul style="list-style-type: none">☞ 顧客への往訪が難しくなり、商談や契約へのスピード感が失われている☞ 水晶片の新しいカットである『KoTカット』の発見もあり、開発ポートフォリオを見直し
<p>事業構造変革による収益力の強化</p> <p>生産体制の最適化とコストコントロールの徹底 経営資源を柔軟かつ適切に配分し、資産効率の最大化を目指す</p>	<ul style="list-style-type: none">☞ コストコントロールの徹底を継続中

注力市場への販売拡大

既存製品の収益力強化



注力市場への販売拡大

**新たな成長ドライバーの
創出**



事業構造変革による収益力の強化

生産体制の最適化と

コストコントロールの徹底



マーケティング力の強化

コロナ禍における



営業スタイルの変革

第6次中期計画重要指標



持続的な成長

売上高営業利益率 8%超

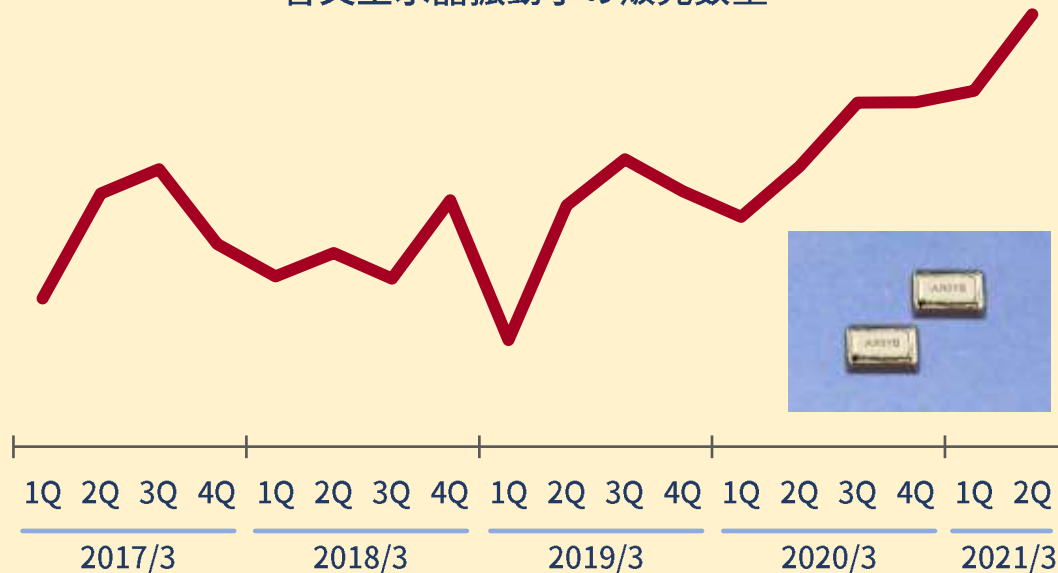
プロダクトミックスの最適化を図る

事業規模と収益性の両立をベースに、持続的な成長を成し遂げるプロダクトミックスの構築

小型音叉型水晶振動子の増産

- ☞ 青森リバーテクノにライン増設 2021年6月稼働予定
- スマホを中心とした好調な受注に対応する

音叉型水晶振動子の販売数量



新製品の投入による収益性の向上

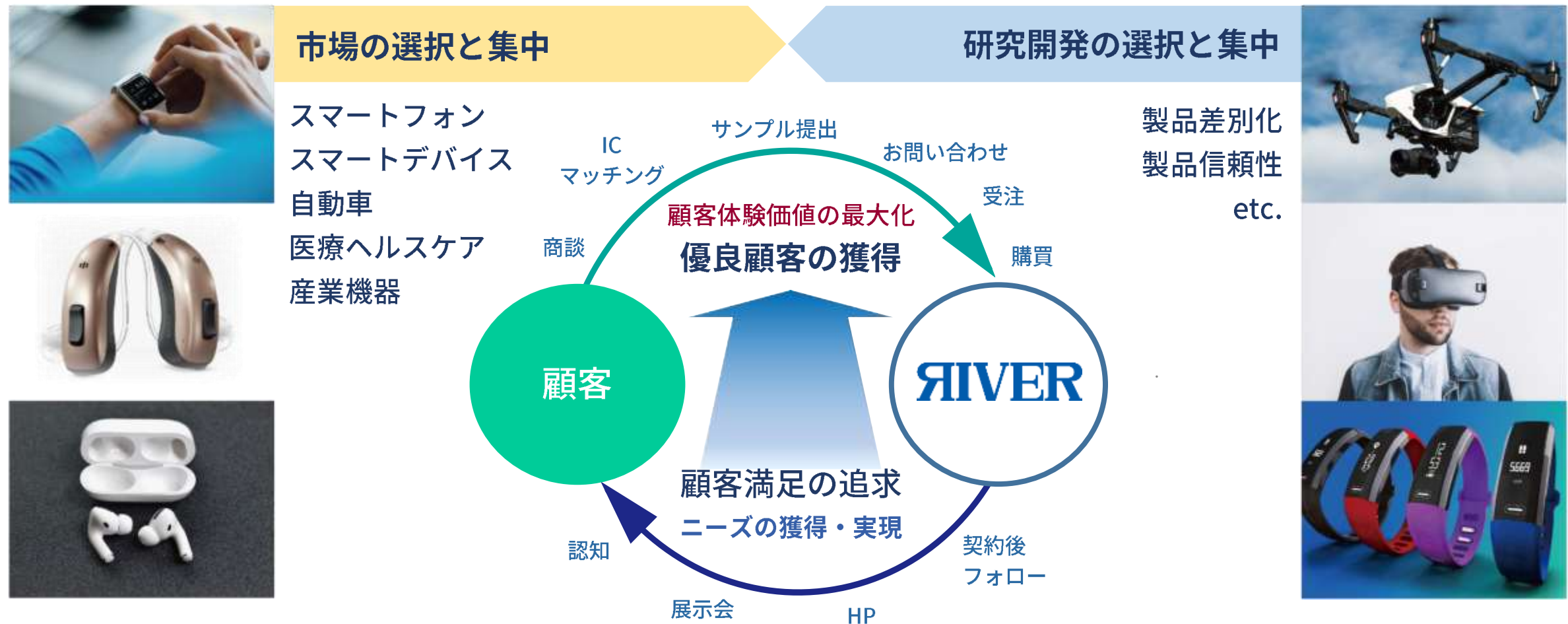
- ☞ コロナ禍において計画に遅れが生じるも、エレクトロニクス業界全体において開発が遅れている状況
- ☞ 時流を逃さないスピード感をもって開発プロジェクトを進めていく

採算性の悪い製品の改善

- ☞ ライフサイクルの見極め
- 製品の成長性、競争力etc
- 値戻し・値上げ、外製化、原価低減etc

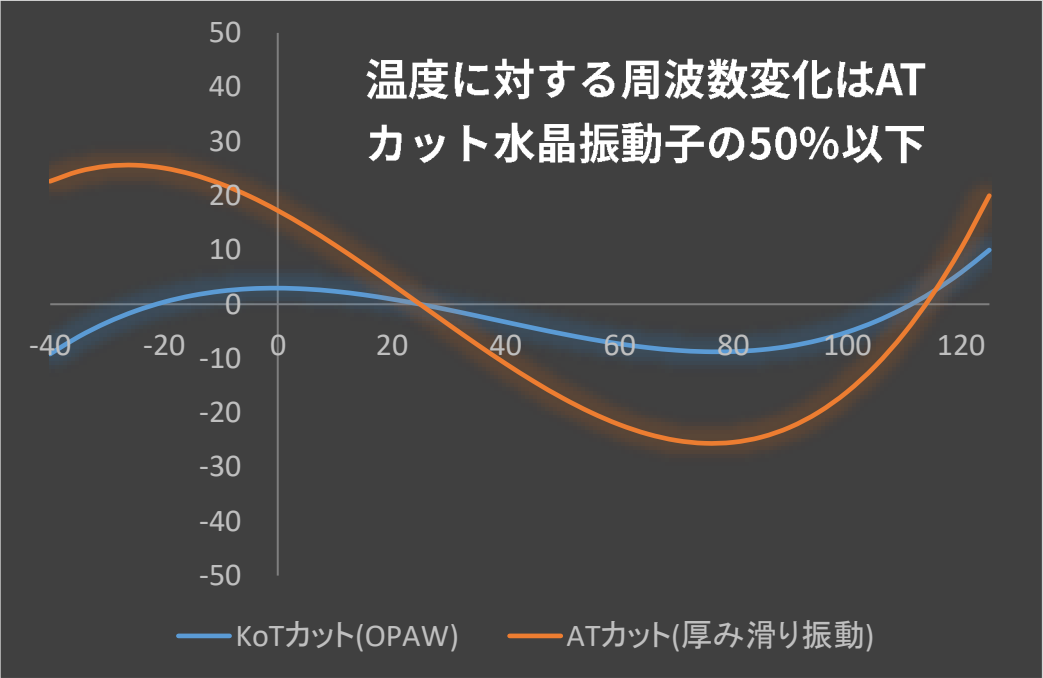
優良顧客の獲得・拡大を目指す

- 👉 市場ニーズと当社の強みを合致させ、持続的な成長と高付加価値の創出を目指す
- 👉 顧客とのあらゆる接点において顧客満足度を高める活動を推進する



KoTカットの発見

- 基本波での発振が300MHz以上となる直交板弾性波（OPAW、当社オリジナル名称）を応用した新しいカット角を発見し、「KoTカット」として特許及び商標出願中
- 300MHz～1.2GHzの高周波帯にてAT・SAWではできなかった「高精度の高周波」「良好な位相雑音/ジッタ特性」「良好な周波数温度特性」を同時に提供することが可能に
- ミリ波帯領域等、今後利用拡大が見込まれる高周波数帯において、強力なソリューションを提供できる



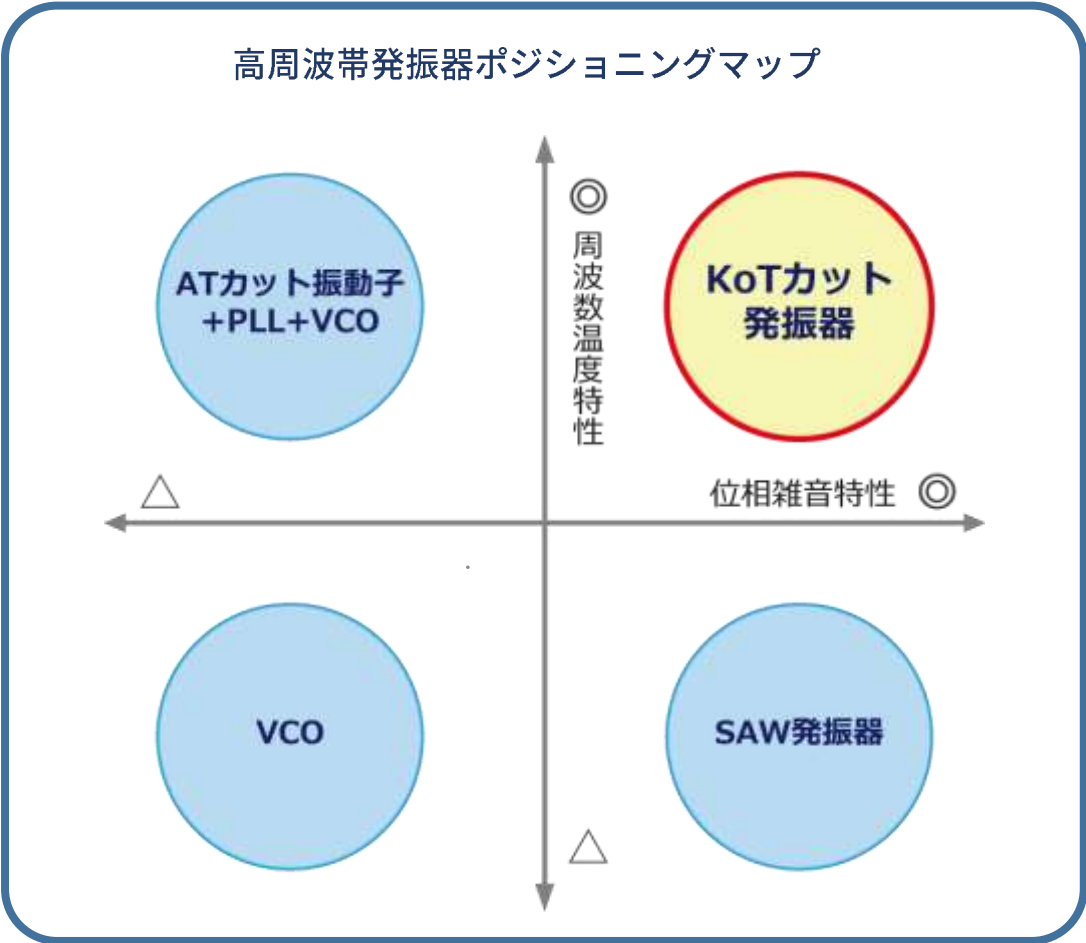
	振動モード	常温偏差	周波数 温度特性	経時変化	ジッタ特性	位相雑音
KoTカット発振器	直交板弾性波	◎	◎	◎	◎	◎
SAW発振器	弾性表面波	△	△	○	◎	◎
ATカット振動子+PLL	厚みすべり	◎	○	◎	△	△

KoTカットデバイスのターゲット

👉 今後のさらなる利用拡大が見込まれる高周波数帯域がターゲット

電波名称	波長	周波数	情報量	直進性
サブミリ波	0.1 ～ 1mm	0.3 ～ 3THz	多い	強い
ミリ波	0.1 ～ 1cm	30 ～ 300GHz		
マイクロ波	1 ～ 10cm	3 ～ 30GHz		
極超短波	0.1 ～ 1m	0.3 ～ 3GHz		
超短波	1 ～ 10m	30 ～ 300MHz		
短波	10 ～ 100m	3 ～ 30MHz	少ない	弱い
中波	0.1 ～ 1km	0.3 ～ 3MHz		
長波	1 ～ 10km	30 ～ 300kHz		

👉 KoTカット発振器は、既存の高周波波発振器に対して、位相雑音特性と周波数温度特性の両面で優れています



KoTカットデバイスの想定アプリケーション

KoTカットデバイスの特長

300 MHz～1.2 GHzの
高周波帯を直接発振

1 GHzでの
低位相雑音・低ジッタ

SAW発振器を上回る
良好な温度特性



高速・大容量データ通信に
高精度の基準信号が不可欠な
ハイエンド用途に最適

「高度な次世代通信」
における通信品質を確保



高精度測定に
良好な位相雑音特性の実現が
困難であった高周波領域に対応

最高水準の位相雑音特性が
要求される「測定・計測
用途」に最適

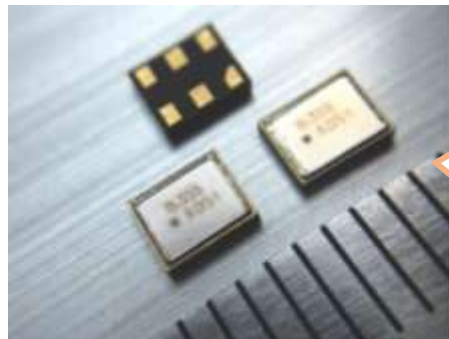


対象物検知に
従来のSAW共振子では実現困難だった
「広温度範囲での周波数安定性」により、
これまで充足出来なかったニーズに対応

車載をはじめFA機器、ロ
ボット等、様々な「産業
用途」に応用可

高精度が要求される市場向けに、300MHz~1GHz帯をカバーするKoTカット水晶振動子・発振器を開発中

使用温度200℃対応のGTカット水晶発振器「GTXO-04」

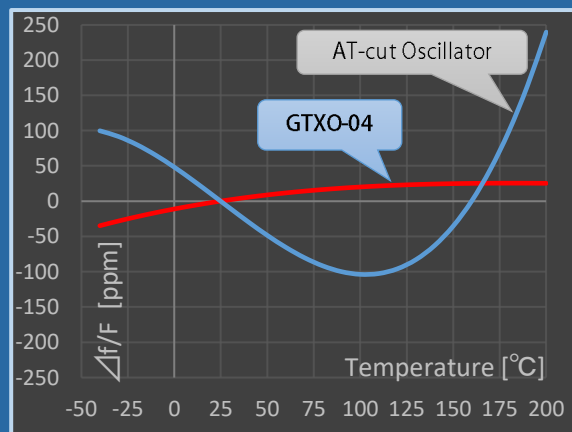


業界初!

200℃対応で
少ない周波数
誤差

GTXO-04の特長

- ① 7.9 MHz～1124MHzの広い出力周波数に対応
- ② LVPECL、LVDSに対応
- ③ 従来VCXOモード（電圧制御発振器）の選択が可能
- ④ 従来のSPXOやTCXOで対応できない-40℃～200℃の広い温度範囲でATカットを凌ぐ高い周波数精度を実現



海外中心にサンプル出荷対応

想定アプリケーション

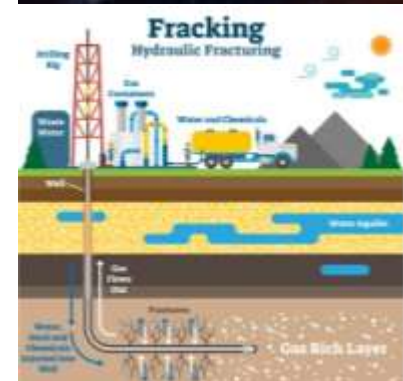
極地開発等、超低温環境での
カメラ、無線通信用途



航空宇宙産業等、超高温環境
でのカメラ・無線通信用途



資源開発等、厳格環境でのカ
メラ・無線通信用途



生産体制の最適化とコストコントロールの徹底

👉 生産体制の最適化

2018/10 River Electronics (IPOH) の水晶振動子の製造を青森リバーテクノに機能集約

2019/07 青森リバーテクノの3工場体制を2工場体制に集約
(機能集約及び間接部門のスリム化)

今後もプロダクトミックスの最適化に合わせた
生産体制の再構築を実施していく

👉 コストコントロールの徹底

費用対効果の検証徹底
効率的な人員配置 etc.

継続実施

コロナ禍における営業スタイルの変革

現状、顧客への往訪が難しくなり、
一部、商談や契約へのスピード感が失われている

顧客の環境に対応できるように
営業スタイルを模索していく



部門間の連携をより強固にし、顧客満足度を高める体制を構築する



本資料に記載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などの記載は、将来の業績に関する見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。実際の業績はこれらと異なる結果となる場合がありますので、これらの業績見通しに過度に依存されないようお願いいたします。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、景気動向、為替変動、当社の事業領域に関連する技術革新や需要変動、当社の開発・生産能力などが含まれます。

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。